

らららん1号



2018. 4. 16

新年度がスタートしました!!

いよいよ新年度がスタートしました。今年度、この「らららん」は、園長の願いや感じたことを中心に載せていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

乳児部も幼児部も、子どもたちの元気な歓声が響く毎日がやってきました。ここ数日の様子を皆さんへお知らせしたいと思えます。

乳児部は、新入園児の慣らし保育も終わり、通常の保育が始まりました。私が行ったときは、ちょうど午前中のおやつの間でしたが、みんなとても落ち着いていました。どの子も小さい体ですが、ムシャムシャ食べる食べっぷりがとてもいいなと思えました。本園が取り組んでいる「担当制」のよさが出ているなあと実感しました。乳児部では、子どもがお母さんに対して持っている安心感を大切にしています。乳児一人一人に、信頼できる先生が同じ育児行為をするようにしています。子どもと共に喜び、失敗したときも共感する保育を進めたいと思っています。



幼児部は、始業式が4/11(水)に行われました。始業式で久しぶりに全員の子もたちと会えました。しばらく会っていないと何か一回り大きくなっているようで、眩しい感じがしました。これから毎日を、元気よくのびのびと過ごしてくれたらいいなと思えます。年少の子どもたちは園に慣れるのも大変ですが、例年のこの時期より泣く子は少ないようです。園で遊ぶことや友だちとのかかわりに魅力を感じたら、だんだん好きになってくれると思えます。

いろいろな出来事に期待がふくらむ新学期ですが、子どもたちには日々の活動から多くの経験をしてほしいと思っています。年齢も経験も少ない子どもたちですから、失敗することも多いのではないのでしょうか。しかし、そんなときに大人が大きな声で叱ってしまうこともあるでしょう。テレビでお母さんの顔が般若の面になりそうになるカフェオレのCMもありました。叱ってしまえば、話は収まったかのように思えますが、子どもたちには納得できないこともよくあります。でも、こんなときこそ、チャンスだと思うのです。まずは、お子さんと落ち着いて話してみることです。「どうして、失敗したんだろうね？」

「どうすればよかったんだろう？」原因とこれからの対応を話し合って決めることができれば、必要以上にボルテージを上げることはないでしょう。また、子どもも落ち着いて行動できるようになるでしょう。しかし、大人の立場で考えると「注意散漫だから同じような失敗を繰り返すのだ」と考えがちです。つまり、ガツンと印象に残る叱り方が必要だと思ってしまうこともあるのです。しかし、叱られることは誰でも好きではありません。子どもはひどい仕打ちを受けると、その場をくぐり抜けるために嘘をつくようになります。これが習慣化すると、改めることはなかなか手がかかるのです。

先生も保護者の皆さんも子どもたちから、対応を見られているという意識を持つことが大切でしょう。よく言う「ピンチがチャンスだ」と考えると、失敗も決して悪いものじゃないと思えてきます。ステップアップするいい機会なんだという受け止め方が、大切だと思います。子どもたちに「どうしたらいいのだろう？」とコミュニケーションをとるようにすれば「ちゃんとできたね」とほめる機会も増えるでしょう。次の行動につながるかわり方が大切だと思います。

最後に、お願いがあります。送迎のときに園でご自分のお子さん、お孫さんの様子をカメラや携帯で撮られる方がおられたようです。園では、お子さんの写真は、個人情報保護の観点から、保護者の皆さんの承諾をとり使用させて頂いています。中には使用してほしくない方もおられます。大変申し訳ありませんが、その活用については、十分にご留意をしていただくと助かります。なお、ときどき園で行事などの写真注文を取ることがありますので、その機会もご利用していただければと思います。

半分、青い。

四月になって、NHKの連続テレビ小説も新番組がスタートしました。「半分、青い。」というタイトルです。ちょうど4/9～4/14の週で、主人公の鈴愛(すずめ)が小学3年生で左耳の聴力を失うことが物語の中心として扱われました。病名はムンプス難聴というおたふくかぜ(流行性耳下腺炎)のウイルスが内耳に感染して発生する難聴です。現実のおたふくかぜでは、罹患者数に対しての割合は高くはないものの2015～16年に全国で348人が難聴になったと診断されています。この難聴は、鼓膜の奥の蝸牛かぎゅうというカタツムリ状の聴力を感じる部分がダメージを受け、ほとんど治らないということです。昨年、この野田学園幼稚園でも流行性耳下腺炎にかかる園児が多くいました。また、最近でも、罹患者が出ているのです。



「半分、青い。」では、障害に負けずに明るく強く生きていく主人公を描いています。しかし、その難聴を防ぐためには、ワクチン接種が大切です。転ばぬ先の杖なので、保護者の皆さんには、お子さんのためにぜひワクチン接種をお願いしたいと思います。

この「半分、青い。」は、北川悦吏子さんが脚本を書いています。北川さんの経歴を調べてみると、2004年の日曜劇場「オレンジデイズ」を書いています。もう、十数年前になるのですがこの物語はよく覚えています。柴崎コウさんが耳の聞こえない学生で、その彼女をサポートするのが妻夫木聡さんだったように思います。いい加減な学生(妻夫木さん)が、障害があり心を閉ざす彼女(柴崎さん)のために、次第に人の気持ちを考えられる大人へ成長していくというストーリーだったように思います。ミスチルの主題歌「サイン」が、とても印象的だったことも記憶に残っています。

その後、北川さんは自分自身が2012年に突発性難聴になり、左耳を完全に失聴しているということも知りました。このとき、ご自分の書かれたオレンジデイズの主人公に、自分が励まされたともコメントしています。そして、この「半分、青い。」になったのかと思うと、この番組は見逃せないと思うのです。連ドラ予約を、こまめに見る努力が大切だと感じています。